

審査の結果の要旨

氏名 郝 利新

本研究は中国の流動人口の子どもにおける予防接種(BCG、ポリオ、百日咳-ジフテリア-破傷風三種混合 (DPT)、麻疹)の現状を明らかにするため、2004年に中国保健省が実施した全国予防接種調査のデータに基づいて、流動人口の子どもに対する生後12か月までの各ワクチンの接種率及び完全予防接種率(全ワクチン接種完了率)を推定し、非流動人口の子どもとの差を分析し、そして、完全予防接種の有無に影響する可能性のある因子について検討したものであり、下記の結果を得ている。

1. 対象となった子どもは155,899名で、流動人口の子どもは3.5%(5,478名)を占めた。分析の結果、流動人口の子どもにおける接種率はBCG90.9%、ポリオ3回87.7%、DPT3回85.3%、麻疹85.5%、完全予防接種率は78.2%であった。一方、非流動人口の子ども(150,421名)における接種率はBCG97.8%、ポリオ3回94.0%、DPT3回93.3%、麻疹92.9%、完全予防接種率は87.6%であった。これらは、中国の流動人口の子どもにおけるの予防接種率を初めて推定したものである。
2. 流動人口の子どもは非流動人口の子どもに比べて、各々のワクチンの接種率及び完全予防接種率が有意に低かった(カイ2乗検定により $p<0.001$ )。完全予防接種率について、多重ロジスティックモデルを用いて分析した結果、他の因子の影響を除いても、両群の差は有意であった。これらの結果は、種々の対策により、流動人口の子どもの予防接種率を向上させる必要性を示唆している。
3. 流動人口の子どもにおいて、完全予防接種率は、出生地で生まれ、かつ出生地で予防接種を受けた群は64.2%、出生地で生まれ、かつ出生地と現居住地両方で予防接種を受けた群77.3%、現居住地で生まれ、かつ現居住地で予防接種を受けた群85.8%であり、各群内で有意な差を認めた。
4. 流動人口の子どもにおける予防接種をうけていない理由については、「予防接種を知らなかった」、「予防接種の場所や時間を知らなかった」、「親が忙しかった」と

5. 多重ロジスティックモデルを用いて、流動人口の子どもにおける完全予防接種の有無に関連する要因分析をしたところ、「現居住地で生まれた」、「子どもの予防接種証明書を持っている」、「医療機関で生まれた」、「東部の省あるいは中部の省に住んでいる」、「予防接種に関する親の知識レベルが高い」という6つの変数が完全予防接種と関連していた。

以上、本論文は中国の全国予防接種調査のデータ分析から、流動人口の子どもの予防接種の実態と完全予防接種の有無に関連する要因を初めて解明したものである。本研究は流動人口の子どもにおける予防接種の現状の理解と今後の予防接種率の向上に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。